

① 研究主題

「言葉を紡ぐ姿を目指して」

～考えや思いを受け止め伝え合う指導の工夫～

② 設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「思いやりの心にあふれ 心身ともにたくましく ともに学びを深める子の育成」である。「ともに学びを深める子の育成」のために、言語力の育成を図ることと結びついた研究が求められている。本校では、平成31年度から、「話すこと聞くこと」に重点をおき、本校の教育目標の実現を目指してきた。さらに令和2年度は、言語の大切さを実感し、適切に使う力を育む活動に焦点を当てた研究を進めた。令和3年度には、その獲得した言語を、対話の中で活用できる姿を目指して取り組んだ。今後も、問題解決の過程で、子どもたちが自分の考えを伝え、友達からの多様な考えを取り入れる活動を進めることで、「自分で考える子ども」「考えを表現する子ども」の育成に力を入れていきたいと考えている。

(2) 昨年度までの研究と子どもの実態から

三年間の研究成果として、児童は友達の意見に興味をもって積極的に話を聞いたり、共感的に聞いたりする成長が見られるようになってきた。しかし、一方で、自分の考えをもてない、どう発表したらよいかわからないという児童も依然としており、意欲的に自己表現しようとする児童との差が見られた。児童が互いに話すこと聞くことによって、関わり合い、考えを深め合っていく力はまだまだ弱い現状が見えてくる。自分の考えがもてない、どう発表したらよいかわからない児童がいる要因として、言葉を適切に使って表現する力、正確に理解する力が乏しいことが挙げられる。

昨年度は、「話すこと聞くこと」に、さらに言語活動の大切さを実感し、対話の中で言葉を適切に使う力を育む活動を加えた。これにより、児童は言葉や伝えたい内容を正確に理解し、適切に表現する資質・能力を身につけ、活用する力を高めつつある。また、コロナ禍により、対話もままならない状況下において、学習用端末の機能を活用することにより、新しい対話の形を模索していくこともできた。そこで今年度は、そのような言語活動の充実を意識しながらも、特に「自己の考えを広げ深める対話的な学びの研究」(昨年度の研究でいうところの二つ目の柱)に焦点を当て、児童がより豊かに言葉を紡ぎ合う姿を追求していく。

以上のことをふまえて、今年度の研究主題を昨年度に引き続き「言葉を紡ぐ姿を目指して」とし、研究の手法として研究副題を「考えや思いを受け止め伝え合う指導の工夫」と設定した。

本校における言葉を紡ぐ姿とは…

まず、豊かな語彙力を身につける。(令和2年度・3年度の研究の重点)

次に、その身についた語彙力を活用し、自分の考えをもつ。最後に、対話する活動を通して、自分の考えと相手の考えと絡ませて、新たな考えや思いを生み出す。(令和3年度・4年度の研究の重点)

そのような姿を本校では「言葉を紡ぐ姿」とであると定義している。

③ 研究のねらい

「自己の考えを広げ深める対話的な学びの充実」を図っていくことで、児童が自分の考えをもち、相手の考えや思いを受け止め合いながら、豊かに言葉を紡ぎ合う姿を目指す。